

〈「帰国婦人コース」目標構造表（2カ月版）〉 ※※※※※※※※※※※※※※※※【602】

1. 目標構造表作成にあたっての状況設定

(1) 学習者側の条件

- ・学習者を下記三つのタイプに特定した上で、どのタイプの学習者にも共通する目標と、学習者の興味・関心度に応じて設定される目標とに分けた。

学習者タイプ
a. 学習適性が相対的に高く、行動力もあり、社会生活全般に興味と意欲を持續させているタイプ
b. 学習適性が相対的に低く、行動も近在に限定され、学習への興味は生活に密着したものが中心になるタイプ
c. 老化の進行に伴う各種症状が認められ、学習スタイルの活動には困難があるタイプ
※学習適性については、自己学習力の判断基準として中国語の識字力と学歴を参考にする
※中国語と日本語の両方に問題のある者がいた場合は、別カリキュラムを立てて対応する
※重度の障害を有する者については、本研修の対象外とし、別途に対応する

- ・現時点では訪問面接調査（1993.駿馳）の結果に基づき、生活保護を受給しながら公営住宅で、独居ないし夫婦二人暮らしをする場合を想定した。

(2) 指導者側の条件

- ・現時点ではレクリエーション活動や老人福祉関係の専門知識に基づいて目標が設定されているわけではない。今後はその方面の知識や人材を取り入れる必要がある。

(3) 学習条件

- ①学習時間：65コマ（2コマ×5日×6～7週） ※1コマ50分
- ②使用言語：日本語で行うのを原則とする
- ③活動形態：講義形式および実習形式（交流会等）
- ④学習者数：10人前後で1クラスが望ましい
- ⑤講師数：講義は1名、実習は必要に応じて複数とする。

(4) その他留意点

- ・下記中目標は、知識が確実に定着し、様々な行動が自力でできるようになることを目指したものではない。社会事情の概要を知ることにより、今後、定着地で周囲の人とコミュニケーションを図りつつ、当地の状況に応じたより現実的な知識や行動力を身に付けるための土台とするものである。したがって、あえて達成目標は設けず、評価も行わない。
- ・学習項目については、学習者の意見や希望を取り入れるよう、柔軟性をもたせる。

2. 目標構造表

大目標	中目標	小目標	研修項目
心身の健康を維持しながら日本人とのコミュニケーションを通じて日本語力の回復を促進すると共に身近な生活に関する最低限の知識を身に付ける	1. 自分の心身の健康が管理できる	・自分の身体や心の状態を把握する	①健康相談
		・身体に良い適度な運動やストレスの発散法を工夫する	①ビデオ鑑賞 ②健康体操 ③音楽会 ④趣味講座（折り紙等）
	2. 日常生活で必要な基本的行動ができる	・交通機関利用に関する知識と技能を身に付ける	①徒歩での通行に関する交通ルールと注意事項 ②バスの利用法 ③電車の利用 ④タクシーの利用法
		・衣食住や消費生活に関する知識と技能を身に付ける	①価格のしくみ（消費税） ②商店の種類と利用法 ③商品の各種表示（食品表示、衣類のサイズ表示、洗濯表示） ④商品知識 ⑤消費生活のトラブル処理法（返品、交換等） ⑥身近なサービスの利用法（レストラン） ⑦家計のしくみ
		・電話利用に関する基本的な知識と技能を身に付ける	①電話の役割 ②電話番号のしくみ ③電話料金のしくみ ④公衆電話のかけ方 ⑤電話会話のマナー ⑥国際電話のかけ方と料金
		・郵便利用に関する基本的な知識と技能を身に付ける	①国内外への手紙の出し方と料金 ②国内外への荷物の出し方 ③国内外への送金方法

3. 自身にとって必要な知識や今後の生活のために有益と思われる知識を知る	・ 帰国者援護措置の概要を知る	①生活保護制度 ②住宅援護措置 ③身元引受人制度 ④自立指導員制度
	・ 戦後史の概要を知る	①戦後史概略
	・ 健康で安全な暮らしのための知識を知る	①防災対策 ②食生活の工夫 ③電気製品の安全な使い方
	・ 呼び寄せ家族の支援者として必要な知識と技能を身に付ける	①教育制度と学校事情 ②住宅事情と不動産利用の知識 ③職探しの方法と労働条件
4. 日本人とのコミュニケーションを通じて生活に必要な情報を得たり、今後の人生や生き甲斐について考える	・ 日本語の表現法および日本の生活習慣や社会事情について、他の人に質問したり相談したりできる	①年齢に相応しいおしゃれの仕方 ②交際のマナー（訪問、贈答の習慣等） ③老後の余暇娯楽、社会参加の道等